

日常生活における共同利用意識とカーシェアリング利用意向に関する研究

東京大学 学生会員 ○藤木 裕二
日本学術振興会 正会員 円山 琢也
東京大学 正会員 大森 宣暁
東京大学 正会員 原田 昇

1. 研究の背景と目的

「マイカー」の持つ利便性を手放さずに、環境負荷を低減させるための一つの答えが、カーシェアリングであると考えられる。しかし、我が国においては、カーシェアリングは欧米ほどに普及していない。その理由の一つに、自動車に対する強い所有意識と、共同利用に対する抵抗感の存在があるものと予想される。本研究では、日常生活における様々な物の共同利用についての意識調査を行うことで、どのような要因が共同利用意識に強く影響を及ぼしているのかを検討する。そして、そこからカーシェアリングの抵抗を軽減させるための方策を検討する。

2. 調査概要

アンケート調査では、日常生活における共同利用に対する抵抗に影響を与えると仮定した以下の4要因に着目して、それらの要因の異なる18項目の共同利用に対する抵抗を5段階評価で質問した。

- ・ 他人との接触: 利用に際して他人と接触するかどうか
- ・ 他人の影響: 直前に使用した他人の影響が残っているかどうか
- ・ カスタマイズ: 本人が利用しやすいように各種設定が可能かどうか
- ・ シェアする相手: 本人と共同利用する相手との関係

調査対象は、カーシェアリングサービスが行われている地区周辺である志木、南町田、川崎である。大半は、紙媒体の訪問配布郵送回収にて実施し、一部のみ電子メールにて調査票の配布・回収を行った。調査票配布総数は498（メール：15）、回収数は89（メール：7）、回収率は17.9%であった。アンケート回答者89名中、男性51名、女性36名、不明2名であり、自動車普通免許保有者は73名であり、そのうちカーシェアリングを利用したいと答えた者:50名、カーシェアリングを利用したくないと答えた者:23名であった。

以下の分析では、カーシェアリングの利用意向に関して無回答であった者および免許非保有者は除外した。

3. 共同利用に対する抵抗要因の分析

表1は調査で聞いた日常生活における様々な共同利用18項目とカーシェアリングを「他人との接触」「他人の影響」「カスタマイズ」「シェアする相手」という4要因で分類した表である。

図1に、共同利用に対する抵抗の5段階評価の平均値を示す（1:全く抵抗がない～5:非常に抵抗がある）。共同利用の対象により、抵抗値には大きな差があることがわかる。続いて、表1で仮定した4要因の影響の有無を明らかにするため、比較したい要因以外の3要因が同じ項目同士で平均値の差のt検定を行った（表2）。検定結果が仮定通りであれば、その要因は共同利用に対する抵抗に影響があるといえる。その結果、「他人の影響」「カスタマイズ」「シェアする相手」の3要因において仮定通りの有意差がみられ、他人が利用した影響が残らず、利用しやすいように設定でき、共同利用相手が身近である場合に、共同利用に対する抵抗が小さいことがわかった。

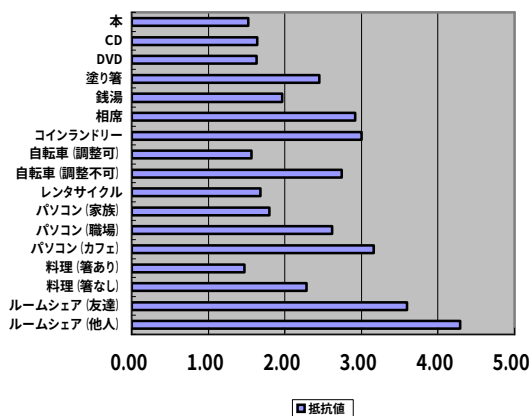


図1 様々な共同利用に対する抵抗

キーワード カーシェアリング, 共同利用意識

連絡先 〒113-8656 文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 TEL: 03-5841-6235

表1 シェア項目分類表

シェア項目	他人との接触		他人の影響		カスタマイズ		シェアする相手		
	する	しない	ある	ない	可能	不可能	知り合い	会員	不特定多数
本									
CD		○	○			○			○
DVD									
銭湯	○		○			○			○
相席									
塗り箸		○		○		○			○
コインランドリー		○	○			○			○
自転車（調整可）		○	○		○		○		
自転車（調整不可）						○			
レンタサイクル		○	○			○			○
パソコン（家族）							○		
パソコン（職場）		○	○		○			○	
パソコン（カフェ）									○
料理（箸あり）	○			○		○	○		
料理（箸なし）			○						
ルームシェア（友達）	○		○		○		○		
ルームシェア（他人）									○
タイムシェア別荘		○		○		○		○	
カーシェアリング		○	○			○		○	

表2 要因別抵抗値の大小に関する仮説と検定結果

要因	仮説	検定結果
他人との接触	本、CD、DVD、コインランドリー、レンタサイクル < 銭湯、相席	本、CD、DVD、レンタサイクル、銭湯 < 相席、コインランドリー
他人の影響	料理（箸あり） < 料理（箸なし）	料理（箸あり） < 料理（箸なし）
カスタマイズ	自転車（調整可） < 自転車（調整不可）	自転車（調整可） < 自転車（調整不可）
シェアする相手	パソコン（家族） < パソコン（職場）	パソコン（家族） < パソコン（職場）
	パソコン（職場） < パソコン（カフェ）	パソコン（職場） < パソコン（カフェ）

4. カーシェアリング利用意向別抵抗値による分析

シェア項目ごとにカーシェアリング利用意向別の抵抗値（図2）に対して平均値の差のt検定を行った。

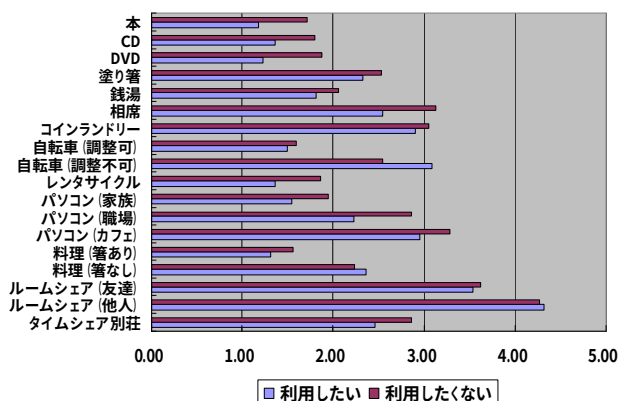


図2 カーシェアリング利用意向別抵抗値

結果、カーシェアリングを利用したくないと答えた者の方が抵抗値の平均値が高い項目である本、CD、DVD、レンタサイクル、相席、パソコンの6項目に有意差が認められた。この6項目に共通することは、「他人との接触」を考えなければ「他人の影響がある」「カスタマイズできない」「シェア相手が知り合い以外である」という要因を持つことである。

5. 結論

一連の分析から、カーシェアリング利用に対する抵抗を軽減するためには、「他人の影響がある」「カスタマイズできない」「シェアする相手が知り合い以外」という3要因を緩和することが有効であるものと考えられる。そのために、以下の方策を提案する。

- ◆ 共同利用車の清掃頻度を増やす。
- ◆ 共同利用車の車種を増やす。
- ◆ そのデポを利用する会員同士の交流を深める。

今後の課題としては、（1）今回提案した方策を実施した場合のカーシェアリング利用意向の変化の把握、（3）カーシェアリング利用者・非利用者特有の抵抗要因に関する考察、等が挙げられる。

参考文献

- 1) 村上敦(2004) カーシェアリングが地球を救う, 洋泉社.
- 2) 太田勝敏(1998) マイカーに代わる新しい交通手段—カーシェアリングの新展開, 都市問題研究, No.50, pp.15-28.